

第1章

災害ボランティア活動とは

1 災害の種類と被災者・被災地が求めるもの

[1] 災害とは

地震や台風などの災害は、多くの尊い命を奪い、財産、生活の基盤などに大きな損害を与えます。また、災害が発生する前に成り立っていた社会システムや生活のサイクルなどに大きな影響を与えるばかりか、場合によってはそれらを根底から覆す力を持っています。

災害とは

- 『暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他の及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害』
(災害対策基本法 昭和36年11月15日法律第223号)
(※政令で定める原因は、放射性物質の大量の放出、多数の者の遭難を伴う船舶の沈没その他の大規模な事故となっています。)

災害の種類を分類すると、表1のようになります。

◆表1

カテゴリー		災害の原因
自然災害	気象災害	台風、豪雨、豪雪、雪崩、雷、雹、高潮、洪水、波浪、かんばつ、山崩れ など
	地変災害	地震、火山噴火、山崩れ、地すべり、津波 など
	動物災害	病虫害、伝染病、風土病 など
人為災害	都市災害	大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、廃棄物汚染、放射能汚染、大火災 など
	産業災害	列車・航空・船舶事故、鉱山事故、工場などの大規模な事故 など
	管理災害	管理不備、設計・施工不備、医療事故 など
武力攻撃災害		戦争、紛争、テロ など

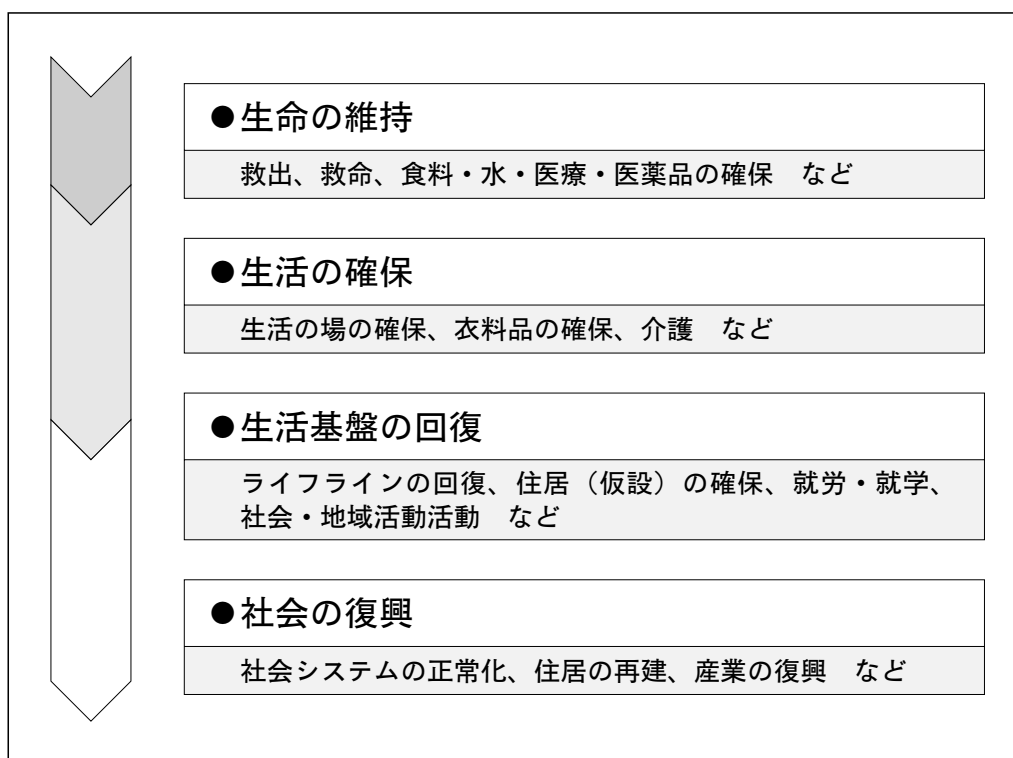
[2] 被災者・被災地が求めるもの

災害により被災者や被災地が求めるものは、災害の種類や規模、発生の時期や場所、被害の種類などにより多様に変化します。その実態や変化を的確に把握することが、災害救援をするうえで大変重要です。

阪神・淡路大震災（平成7年）と新潟県中越大震災（平成16年）では、同じ地震でも神戸市など大都市での被害と、積雪を考慮した建物が多い新潟県の中越地方での被害では、建造物被害だけを比べても大きな違いがありました。その地域の気候や地形、習慣など総合的に考慮した救援活動が大切になります。

しかし、被災者が求めるものは、ある程度共通しています。第一に、救命、治療、食料などの生命の維持と、生活の場や衣料品などの生活の確保です。第二に、住居の確保や就労、社会・地域活動などを回復させるなど、生活基盤の回復です。この後で被災した地域全体の社会システムを、通常の状態（被災前）にするための復興活動が求められることになります。

図1



災害ボランティア活動は、これら被災者をとりまく環境の変化を正しく受け止め、的確な支援活動を展開しなければなりません。

[3] 時間経過と状況の変化

災害が発生してからの時間経過とともに、被災者・被災地が求めるものは変化します。地震の場合と水害の場合を想定して、それらをフェーズ（段階・局面）ごとに状況の変化を示したのが表2です。

◆表2

フェーズ		状 況
フェーズ0	【緊急救命期】 地震：0～3日 水害：0～1日	- 救命活動が中心となる段階で、自分や家族、近隣で救命活動を展開します。 - 自治会や消防団、自主防災組織などが中心となり、住民による救援活動が主体となります。
フェーズ1	【緊急対応期】 地震：3～30日 水害：0～20日	- 消防や自衛隊、公的機関などによる組織的救援活動が開始されます。 - 被災地外からの支援やボランティア活動も開始される段階です。
フェーズ2	【応急対応期】	- 緊急対応が収束し、仮設住宅建設なども始まるなど、本格的な復旧活動が展開されます。 - 復興計画なども検討される段階です。
フェーズ3	【復興期】	仮設住宅などへの入居も終わり、避難所もほとんどが閉じられ、復興計画に基づき復興活動が展開されます。

以上のように、災害発生から復興段階まで常に状況は変化します。ただし、ここに記載した事項も、災害の種類や規模・時期・場所などの違いにより変わってきます。

2

災害時のボランティア活動

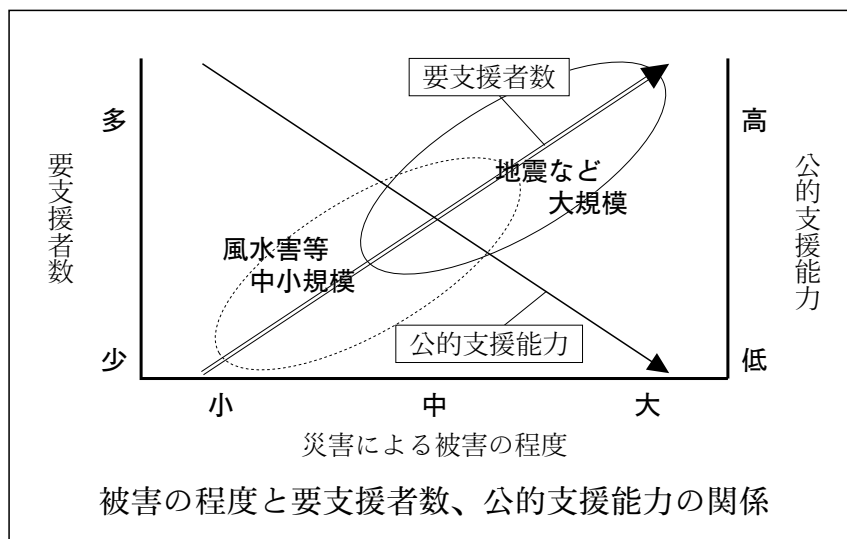
[1] 災害ボランティア活動とは

災害が起きると、被災地内の住民の多くは自力での生活維持は困難となり、外部からの支援を必要とする状態になります。災害の規模が大きくなり被害の程度が大きくなるほどに要支援者の数が多くなります。本来、それら被災者を支援するのは行政など公的機関の役割となっています。しかし、災害規模に反比例するように被災地の公的機関の機能が減退するため、円滑な支援活動は困難となります。（図2）

こうした状況に対して、人道的な視点から市民によるボランティア活動が生まれ、救援活動が展開されます。これが災害ボランティア活動です。

ボランティアは一般の生活者です。そのため被災者に一番近いとも言えます。たまたま支援者の立場になったものの、状況が違えば逆であったかも知れません。そのため、支援に駆け付けたボランティアの中には、被災者の痛みを自分の痛みに置き換え、被災者の立場に立って考え行動する方が多く見られます。被災者からも、そうした方々のボランティア活動を受けることで、「勇気をもらった」、「元気がでた」という言葉が自然に返ってきます。災害ボランティア活動は、具体的な支援活動と共に、被災者の精神的な支援活動も行っており、被災者が自ら立ち直っていこうとする勇気につながっていくことになります。

図2



[2] 災害時のボランティア活動の種類

災害ボランティア活動には様々な種類があります。主な活動を分類すると表3のようになります。

◆表3

直接的な支援活動	被災者の支援活動	家財道具などの運搬・片付け、清掃、炊き出し、介護、除雪、こころのケア など
	被災地の支援活動	清掃、ゴミ処理、公共施設復旧支援、通信支援 など
間接的な支援活動	災害ボランティア活動への支援	資金支援、情報支援、物資支援、人材支援 など
	被災者への間接支援	義援金、救援物資 など
	その他支援	産業支援、観光支援 など

公正・公平・平等などの絶対原則に制約される行政などとは違い、ボランティアは自由で、柔軟な対応をすることができます。その特性を活かし、機動性のある多様な活動が可能となり、上記以外にも、様々な活動の可能性を持つことができます。

[3] 一般ボランティアと専門ボランティア

ボランティアの活動の参加形態として、大きく一般ボランティアと専門ボランティアがあります。

一般ボランティアとは、特別な知識や資格がなくてもできる範囲の活動をするボランティアを言います。一般ボランティアの果たす重要な役割として、災害によりライフラインが止まっている間の社会のフローシステムの代替機能を果たすことなどがあげられます。

一方、専門ボランティアは、医師や看護師などの資格や特殊技能を持って活躍するボランティアのことです。

県では、一般ボランティア、専門ボランティアそれぞれの方々に、災害時にボランティア活動をしていただくために、福井県災害時ボランティア登録制度（P67）を設けてあります。

◆表4

	一般ボランティア	専門ボランティア
個人参加	ボランティア経験の少ない個人・専門能力を持たない個人	看護師・介護士・建築士・カウンセラー・研修を受けた個人（コーディネーター）
団体参加	学校・自治会・企業・NPO・ボランティア組織・その他災害活動経験の少ない団体	災害NPO・大学・医療機関・建設会社・その他研修を受けた組織

[4] 災害時のボランティア活動への参加

災害時のボランティア活動に参加するうえで、無責任で身勝手な行動は、かえって被災者を傷つけることとなったり、被災地に混乱と迷惑を生じさせる原因になったりします。そのため、以下の点などに十分注意して活動してください。

① 現地ボランティアセンターなど関係機関の指示に従う

ボランティアの特性に「自由性」というものがありますが、被災地は二次災害がいつ発生するかも知れず、危険な場所での活動だということを理解してください。ボランティアの特性である自主性や自己責任を取り違えず、必ず現地に設置されているボランティアセンターや、行政などの関係機関で安全を確認し、その指示に従い活動してください。

② 被災者の立場に立って接する

「がんばってください」、「大変ですね」など、相手（被災者とボランティア）との立場の違いを明確にするような言葉は慎みましょう。応援するつもりで発した言葉でも、被災者にとっては「他人ごと」と距離を持って受け取られたり、やるせない言葉となってしまうこともあります。必ず、相手の立場に立って接するように心がけてください。

また、災害ボランティア活動は、「してあげる」といった押し付けがましいものにならないよう、被災者の意思を尊重し活動することが大切です。

③ 自分自身の生活にあった活動をする

「私が行かなければ」、「ここで私が帰ってしまっても」と、仕事などを無理に休み自分自身が通常の生活に戻れなくなってしまうボランティアがいます。ボランティア活動は、自ら犠牲を強いてする活動であってはなりません。家族や周りの人たちと、よく相談しながら生活に無理が起きない範囲で活動してください。

④ 被災地入りに際して

現地では自動車の使用は控えましょう。また、帰りの交通費や場合によっては宿泊費なども忘れずに持って行くようにしましょう。

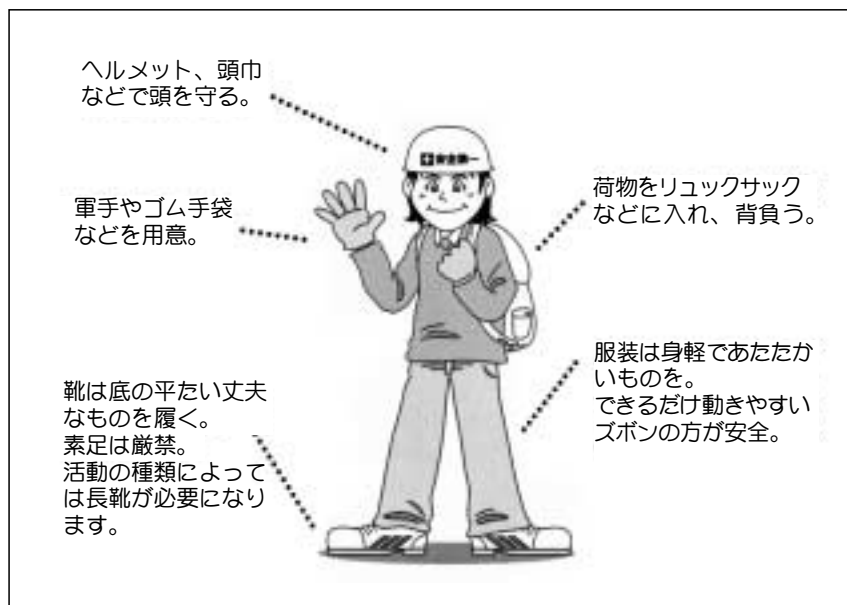
被災地の外から支援活動に参加するボランティアは、被災地に負担をかけない自給自足を原則とします。例えば、食料、飲料水、活動に必要な用具は持参しましょう。また、自分が出したゴミは必ず持ち帰るようにしましょう。

【参 考】

◎ 災害ボランティア活動に関する服装や携帯品

- ① 服 装：図3を参考にしてください。

図3



- ② 持参すると良いと考えられる携行品

備 品：携帯型ラジオ、懐中電灯、電池、ホイッスル など

生 活 品：マスク、タオル、着替え、雨具、ティッシュ など

食 料 品：飲料水、非常食（飴、チョコレート等） など

そ の 他：健康保険証のコピー、簡易救急薬品、点眼薬、うがい薬、
筆記用具、メモ帳、ゴミ袋 など

- ③ 持参すると便利なもの

現地の地図、ナイフ、ライター、ロープ、ウェットティッシュ など